

市販の苗で水耕栽培

自動車部品など樹脂製品製造のみのる化成(赤磐市下市)は、家庭用の水耕栽培セットを開発、販売を始めた。市販の土耕用野菜や観葉植物の苗をそのまま使えるのが特徴。食の安全・安心志向の高まりなどを背景にした家庭菜園ブームを受け、樹脂成形のノウハウを生かした製品化した。新たな市場を開拓し、主力の自動車部品をカバーする。

成 売
化 発
の ト
の セ
み

家庭用に製品化

樹脂成形のノウハウ活用

長方形のプランターと養液の水面を1坪ほど離れたのがポイント。内蔵ポンプで発生させた気泡が水面で弾け、飛散するのを利用し、養液を供給する。



みのる化成が発売した家庭用の水耕栽培セット

苗は「空中」で養液を吸収しながら、水耕用の根を伸ばす。土で育った苗をそのまま水耕用に使って、根腐れを起こすため、従来は根の土を洗い落とし、少しずつ養液栽培に慣らす必要があった。このシステムでは養液を必要最低限に抑えることで、根腐れを防げるという。

レタスなどの葉物野菜やハーブ、マリーゴールドといった花類に適している。ミニトマトやキュウリなどの果菜類も栽培できる。

水耕栽培システムは、関連会社の農業機械メーカー・みのる産業(同所)が岡山大と共同開発。家庭菜園人気の高まりに着目し、

みのる化成がプラスチックの成形技術を基に製品化した。製品名は「パワーズポット」。希望小売価格は9870円。自社ホームページや県内外のホームセンターなどで扱っている。都市部の家庭をターゲットに売り込み、初年度は2千台の販売を目指す。同社は空調ダクトなどの自動車部品が年商の約6割を占める。2008年秋のリーマン・ショックで需要が落ち込み、09年から、新たな収益事業としてタンブラーや家庭菜園用ミニポットなどを開発。「東日本大震災で、自動車産業のサプライチェーン(部品の調達・供給網)が一時的に寸断され、受注が激減した。こうした需要の変動リスクに備えるためにも、自社製品に力を入れていきたい」としている。

同社は1961(昭和36)年設立。資本金4500万円。売上高62億2千万円(2010年12月期)。従業員約280人。(大河南三恵)